

2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月14日

上場会社名 株式会社TWOStone&Sons 上場取引所 東
 コード番号 7352 URL <https://twostone-s.com/>
 代表者（役職名） 代表取締役CEO（氏名） 河端 保志
 問合せ先責任者（役職名） 取締役CFO（氏名） 加藤 真 (TEL) 0364160057
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	10,661	19.7	524	△35.1	595	△25.9	313	△42.0
2025年8月期中間期	8,909	37.3	808	—	802	—	539	—

（注）包括利益 2026年8月期中間期 308百万円（△44.2%） 2025年8月期中間期 553百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
2026年8月期中間期	円 銭 7.18	円 銭 6.55
2025年8月期中間期	12.45	11.28

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年8月期中間期	百万円 10,740	百万円 3,844	% 34.5
2025年8月期	9,947	3,467	33.7

（参考）自己資本 2026年8月期中間期 3,710百万円 2025年8月期 3,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年8月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.50	円 銭 0.50
2026年8月期	—	0.00			
2026年8月期（予想）			—	1.00	1.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,182	33.8	1,324	61.6	1,321	63.7	660	33.6	15.02

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 2社(社名) 株式会社ストラテジーキャンパス、株式会社FAM
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期中間期	44,350,160株	2025年8月期	43,493,360株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	627株	2025年8月期	627株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年8月期中間期	43,628,128株	2025年8月期中間期	43,354,279株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2026年4月上旬にライブ配信による決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料につきましては、開催後当社ウェブサイト(<https://twostone-s.com/>)に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に内需の底堅さがみられた一方、消費者物価は基調的に高止まりする局面が続き、実質賃金の改善はなお途上であることから、消費者の節約志向が継続いたしました。

また、海外経済を巡っては、主要国における通商政策の変化及び地政学的リスクの高まりにより国際貿易をめぐる不確実性が増大しており、為替変動や資源価格の上昇を通じた国内景気への波及が懸念されております。加えて、金融資本市場の変動等も相まって、国内景気の先行きに対する不透明感は強い状況が続いております。

一方で、国内では構造的な人手不足が一段と顕在化しており、なかでもIT人材の確保は企業活動における喫緊の課題となっております。生成AIをはじめとする新技術の実用化が進展する中、サイバーセキュリティ需要の高まりも相まって、企業が求めるITスキルは単なる増員ニーズにとどまらず、要件の高度化・専門化が進んでおります。その結果、採用のみならず、リスキリングを含む人材育成・再配置の重要性が高まり、国内の労働市場においても高水準の人材需要が継続しております。

このような事業環境のもと、当社の事業領域と関連の高いIT市場では、デジタルトランスフォーメーション(DX)投資に加え、生成AIを活用した業務効率化や新規事業開発などの取り組みが拡大しております。デジタルシフトを推進する企業において人材需給の逼迫が続く中、ITエンジニアに対する採用意欲は依然として強く、当社が担うITエンジニアの提供機能の重要性は従来にも増して高まっているものと認識しております。

このような環境下、当社は企業のデジタル化を推進すべく、企業に対するITエンジニアリソースの提供を継続するとともに、ITエンジニアの独立支援を行うMidworks事業を中心としたエンジニアプラットフォームサービスの拡大に注力いたしました。当中間連結会計期間においては前期に引き続き、Midworks事業を中心とするエンジニア獲得及び顧客獲得に向けた広告投資に加え、グループ全体の正社員エンジニア、営業人材及びコンサル人材の採用に関する採用広告費等の投資を実施いたしました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高10,661,815千円(前年同期比19.7%増)、営業利益524,589千円(前年同期比△35.1%減)、経常利益595,100千円(前年同期比△25.9%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は313,300千円(前年同期比△42.0%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

当社グループの報告セグメントは、株式会社Branding Engineerを中心とした「エンジニアプラットフォームサービス」、株式会社Digital Arrow Partnersを中心とした「マーケティングプラットフォームサービス」、株式会社M&A承継機構、株式会社enableXを中心とした「コンサル・アドバイザーサービス」の3区分としております。

① エンジニアプラットフォームサービス

エンジニアプラットフォームサービスは、株式会社Branding Engineerによって運営される企業とフリーランスエンジニアをマッチングするMidworks事業、システムの受託開発やエンジニア組織のコンサルティングを行っているFCS事業、株式会社Branding Careerによって運営されるITエンジニアを中心とした専門領域特化型転職支援サービスであるStars Agent事業、個人・法人双方に対してプログラミング教育やコーチングサービスを提供するSchool事業、株式会社Growth Oneによって運営される受託開発事業、TSR株式会社、株式会社ジンアース、株式会社MapleSystems、株式会社Careconが行うエンジニアマッチングサービスで構成されております。

当中間連結会計期間においては主にMidworks事業において、前期に引き続き新規取引先の獲得に注力するとともに、稼働エンジニア数を増加させるための施策としてエンジニア獲得・顧客獲得のための広告投資のほか、正社員エンジニア、内勤の営業人材の採用に関する投資を積極的に行いました。

この結果、本報告セグメントの売上高は8,618,570千円(前年同期比14.1%増)、セグメント利益は595,031千円(前年同期比△18.8%減)となりました。

② マーケティングプラットフォームサービス

マーケティングプラットフォームサービスは、株式会社Digital Arrow Partnersによって運営されるWEBマーケティングサービスであるDigital Arrow Partners事業、クローズドASPサービスであるASP事業、フリーランスマーケターをマッチングするExpert Partners Marketing事業に加え、株式会社2Hundredによって運営されるBtoCブ

プラットフォーム事業で構成されております。

当中間連結会計期間においては、企業のマーケティング全般を担えるようサービスの拡充を図りました。

この結果、本報告セグメントの売上高は196,067千円(前年同期比△15.7%減)、セグメント損失は△9,583千円(前年同期はセグメント利益37,983千円)となりました。

③ コンサル・アドバイザーサービス

コンサル・アドバイザーサービスは、株式会社enableXが行う戦略コンサルティング事業、株式会社M&A承継機構によって運営されるM&Aアドバイザー事業を行っております。

当中間連結会計期間においては、それぞれの領域において業界経験が豊富な人材を中心に採用を行い、事業拡大に取り組みました。

この結果、本報告セグメントの売上高は1,847,177千円(前年同期比64.4%増)、セグメント利益は473,606千円(前年同期比7.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における総資産は、10,740,776千円となり、前連結会計年度末に比べ792,906千円増加いたしました。これは主に、売掛金及び契約資産が148,314千円、のれんが165,394千円、長期貸付金が270,000千円増加したこと等によるものであります。

負債は、6,896,080千円となり、前連結会計年度末に比べ416,141千円増加いたしました。これは主に短期借入金が137,000千円、未払金が112,709千円、未払法人税等が95,616千円増加したこと等によるものであります。

純資産は、3,844,696千円となり、前連結会計年度末に比べ376,764千円増加いたしました。これは主に資本剰余金が62,013千円、利益剰余金が281,082千円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は4,606,765千円となり、前連結会計年度末に比べ49,524千円増加いたしました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは537,423千円の収入となりました(前年同期は403,247千円の収入)。主な内訳は、税金等調整前中間純利益の計上596,250千円、のれん償却額208,677千円を計上した一方、法人税等の支払額190,786千円が発生したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは620,565千円の支出となりました(前年同期は428,251千円の支出)。主な内訳は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出291,417千円、貸付けによる支出276,400千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは132,666千円の収入となりました(前年同期は250,173千円の収入)。主な内訳は、長期借入金の返済による支出628,907千円があった一方、短期借入金の純増減額137,000千円、長期借入れによる収入606,280千円があったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期の業績予想につきましては、2025年10月15日付けの「2025年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表しました業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,557,240	4,606,765
売掛金及び契約資産	2,414,553	2,562,867
その他	248,030	256,136
貸倒引当金	△3,094	△3,694
流動資産合計	7,216,730	7,422,076
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	72,720	174,916
その他(純額)	10,193	47,622
有形固定資産合計	82,913	222,539
無形固定資産		
のれん	1,872,886	2,038,281
その他	397,739	435,755
無形固定資産合計	2,270,626	2,474,037
投資その他の資産		
投資有価証券	40,278	36,200
敷金及び保証金	198,232	212,657
繰延税金資産	127,369	91,486
長期貸付金	—	270,000
その他	37,103	42,231
貸倒引当金	△25,383	△30,451
投資その他の資産合計	377,599	622,124
固定資産合計	2,731,140	3,318,700
資産合計	9,947,870	10,740,776

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,080,512	1,083,772
短期借入金	100,000	237,000
1年内返済予定の長期借入金	1,069,069	1,126,570
未払金	842,901	955,611
未払法人税等	195,973	291,590
賞与引当金	37,656	50,850
その他	605,347	624,581
流動負債合計	3,931,461	4,369,976
固定負債		
長期借入金	2,468,212	2,461,675
その他	80,264	64,429
固定負債合計	2,548,476	2,526,104
負債合計	6,479,938	6,896,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,038,985	1,057,448
資本剰余金	1,068,884	1,130,898
利益剰余金	1,243,282	1,524,364
自己株式	△303	△303
株主資本合計	3,350,850	3,712,408
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	379	△1,679
その他の包括利益累計額合計	379	△1,679
新株予約権	10,428	15,176
非支配株主持分	106,272	118,790
純資産合計	3,467,931	3,844,696
負債純資産合計	9,947,870	10,740,776

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	8,909,080	10,661,815
売上原価	6,123,972	6,825,545
売上総利益	2,785,107	3,836,270
販売費及び一般管理費	1,976,949	3,311,680
営業利益	808,158	524,589
営業外収益		
受取利息	1,946	5,847
助成金収入	6,981	83,290
受取補償金	2,830	6,206
受取手数料	752	11
その他	1,509	4,205
営業外収益合計	14,019	99,561
営業外費用		
支払利息	11,372	21,553
支払手数料	6,250	—
その他	1,585	7,496
営業外費用合計	19,207	29,050
経常利益	802,971	595,100
特別利益		
事業譲渡益	10,900	—
投資有価証券売却益	—	1,149
特別利益合計	10,900	1,149
税金等調整前中間純利益	813,871	596,250
法人税、住民税及び事業税	290,367	286,719
法人税等調整額	△29,852	△1,465
法人税等合計	260,514	285,253
中間純利益	553,356	310,996
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	13,439	△2,304
親会社株主に帰属する中間純利益	539,916	313,300

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 9 月 1 日 至 2025年 2 月 28 日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 9 月 1 日 至 2026年 2 月 28 日)
中間純利益	553,356	310,996
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△76	△2,058
中間包括利益	553,279	308,937
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	539,840	311,241
非支配株主に係る中間包括利益	13,439	△2,304

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	813,871	596,250
減価償却費	18,290	24,721
のれん償却額	75,120	208,677
新株予約権戻入益	△36	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,034	13,193
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,400	5,368
受取利息	△1,946	△5,847
支払利息	11,372	21,553
事業譲渡損益(△は益)	△10,900	—
助成金収入	△6,981	△83,290
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△1,149
売上債権の増減額(△は増加)	△130,157	△80,645
棚卸資産の増減額(△は増加)	△19,911	3,352
仕入債務の増減額(△は減少)	43,663	2,000
未払金の増減額(△は減少)	△43,968	△19,277
その他	△145,863	△24,281
小計	599,917	660,625
利息及び配当金の受取額	1,946	5,847
利息の支払額	△10,566	△21,553
法人税等の支払額	△195,031	△190,786
助成金の受取額	6,981	83,290
営業活動によるキャッシュ・フロー	403,247	537,423
投資活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△386,313	△291,417
有形固定資産の取得による支出	△856	△44,651
投資有価証券の取得による支出	△1,149	—
投資有価証券の売却による収入	—	2,299
子会社株式の条件付取得対価の払戻による収入	—	12,442
敷金及び保証金の回収による収入	—	511
敷金及び保証金の差入による支出	△37,650	△12,325
貸付けによる支出	—	△276,400
無形固定資産の取得による支出	△2,281	△11,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	△428,251	△620,565
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	137,000
長期借入れによる収入	718,750	606,280
長期借入金の返済による支出	△448,762	△628,907
新株予約権の行使による株式の発行による収入	1,536	36,924
新株予約権の発行による収入	—	3,024
配当金の支払額	△21,350	△21,655
財務活動によるキャッシュ・フロー	250,173	132,666
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	225,169	49,524
現金及び現金同等物の期首残高	3,698,236	4,557,240
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,923,405	4,606,765

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、2	合計
	エンジニア プラットフォーム サービス	マーケティング プラットフォーム サービス	コンサル・ アドバイザー サービス	計		
売上高 顧客との契約 から生じる収益						
外部顧客への 売上高	7,553,338	232,486	1,123,254	8,909,080	—	8,909,080
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,791	5,400	1,169	10,361	△10,361	—
計	7,557,130	237,886	1,244,241	8,919,441	△10,361	8,909,080
セグメント利益	732,531	37,983	440,121	1,210,637	△399,958	810,678

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2. セグメント利益の調整額△399,958千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	810,678
取得関連費用	△2,519
中間連結損益計算書の営業利益	808,158

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社Careconの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより「エンジニアプラットフォームサービス」セグメントにおいて、のれんが357,511千円発生しております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、2	合計
	エンジニア プラットフォーム サービス	マーケティング プラットフォーム サービス	コンサル・ アドバイザー サービス	計		
売上高 顧客との契約 から生じる収益						
外部顧客への 売上高	8,618,570	196,067	1,847,177	10,661,815	—	10,661,815
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,962	10,656	25,194	47,813	△47,813	—
計	8,630,533	206,723	1,872,372	10,709,629	△47,813	10,661,815
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	595,031	△9,583	473,606	1,059,053	△514,058	544,995

(注) 1. セグメント売上高の調整額は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△514,058千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	544,995
取得関連費用	△20,405
中間連結損益計算書の営業利益	524,589

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、株式会社FAMの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより「エンジニアプラットフォームサービス」セグメントにおいて、のれんが122,317千円発生しております。また、当中間連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社enableXが株式会社ストラテジーキャンパスの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより「コンサル・アドバイザーサービス」セグメントにて、のれんが232,773千円発生しております。